

# 『プラタナスの木』

## 場面・お話の内容

・ 第一場面  
四年生になったころ

・ マーちゃんといつも遊んでいる仲間は、  
花島君、クニスケ、アラマちゃん。

・ 川ぞいの公園で、ボール遊びをしている。

・ 一本だけ生えているので、プラタナス公園と呼ばれている。  
公園は、古い大きなプラタナスの木が

・ マーちゃんたちは、サッカーに熱中している。



# 『プラタナスの木』

## 場面・お話の内容

### ・第二場面

#### つゆ明けのころ

・プラタナスの木の下にあるベンチにおじいさんがやって来た。

・そのうちに、おじいさんとだんだん親しくなり、話をするようになった。

・おじいさんの不思議な話。

「このプラタナスの木が、さか立ちしているところを考えたことがあるかい。」  
「このプラタナスの木が公園全体を守っている」

「地上のみきや枝葉がなくなったら、根は水分や養分を送れなくてこまっしてしまうんだ。」



# 『プラタナスの木』

## 場面・お話の内容

### ・第三場面①

夏休みに入っつてすぐ

・花島君とクニスケはお母さんのふるさとに帰省し、アラマちゃんは、家族と海外旅行に出かけた。

・お父さんのふるさとに行くマーちゃんに、おじいさんは「お父さんのふるさとには、木がいっぱいあるだろう。みんなによるしく。」と、にっこり笑った。

### 夏休みの半ば

- ・マーちゃんは、祖母の家に行った。
- ・家の周りには森が広がっている。

# 『プラタナスの木』

## 場面・お話の内容

### 第三場面②

祖父母の家に来て一週間ほど

・大きな台風が森をおそった。

・森はおこったようにゆれた。

・マーチンは、プラタナス公園のおじいさんの顔を思いうかべた。

### 一夜明けると



・台風は通りすぎていた。

・森は、今は静かに太陽の光を受けて  
ぴかぴか輝いている。

・一本一本の木とその根が、ずっと昔  
から森全体を守り、祖父母の家だっ  
てきた。

# 『プラタナスの木』

## 場面・お話の内容

### ・ 第四場面 新学期

・ クニスケが、プラタナス公園の異変を知らせた。

・ 大きなプラタナスの木は、切りかぶだけ残して消えてしまった。

・ その横には、強い日を浴びて、ベンチがぽつんと置かれている。

「残った根っこはきつとこまっているんだらうね。」

# 『プラタナスの木』

## 場面・お話の内容



● 第五場面  
立ち入り禁止がとけたころ

・木が切られてから、おじいさんは公園にすがたを見せなくなっていた。

・マーちゃんたちは、おじいさんがいつもすわっていた、日かげのなくなったベンチにだまつてすわりこんだ。

## そんなある日

・マーちゃんは、プラタナスの切りかぶの上<sup>うえ</sup>に立<sup>た</sup>つてみた。

「おいでよ。なんだか、根<sup>ね</sup>にささえられているみたいだよ。」

・花島君<sup>はなしまくん</sup>を真<sup>ま</sup>ん中<sup>なか</sup>にして、みんなで両<sup>りょう</sup>手を広<sup>ひろ</sup>げていると、みんなが木<sup>き</sup>やみきや枝<sup>えだ</sup>にな<sup>な</sup>ったみたいだ。

・春<sup>はる</sup>になれば、プラタナスも芽<sup>め</sup>を出<sup>だ</sup>し、おじいさんにも会<sup>あ</sup>えるだろう。